

福岡県の居住地選好体系からみた メンタルマップと場所イメージ

石黒正紀・中津光代

(1996年9月10日受理)

はじめに

グールドによる一連のメンタルマップ研究¹⁾が、地理学の世界で始められて30年が過ぎた。この間メンタルマップ研究は、地理的空間知覚研究の中で極めて重要な部分を構成しつつ、空間知覚に関する研究分野を地理学において確立²⁾し、多くの成果³⁾をあげてきた。わが国においても、中村の研究⁴⁾を端緒に、多くのメンタルマップや空間知覚研究⁵⁾が進められてきている。しかし、グールドが実施した居住地選好を使用したメンタルマップ研究は、中村の研究⁶⁾以外にはほとんど見あたらないと言ってよい。さらにメンタルマップ研究は、比較的面積の狭い都市内部などに関する研究⁷⁾が多く進められる一方で、一国単位や世界的スケールでの研究⁸⁾もあるが、わが国の県単位規模程度の空間を対象とした研究は、さほど進んでいない。わが国の都道府県は、例えば市町村を単位として居住地選好体系を明らかにしようとする、その選好単位数が多く⁹⁾なり過ぎて、妥当な結果が期待できない恐れがある。しかし、適当な地域数に県の分割が可能であれば、居住地選好を使用したメンタルマップ研究は、有効な成果を期待できると思われる。

メンタルマップとは、個々人の心の中に形成される地理的空間認識を示す地図(頭の中の地図)のようなもの¹⁰⁾であるが、個々人のメンタルマップが形成されるにあたっては、学校における地理教育や様々な情報手段、実際の経験などによって獲得された地理的知識が重要であり、子供の空間認知に関する研究¹¹⁾も進んでいる。居住地選好からみたメンタルマップの場合、その出発となる具体的な居住地選好を個々人が行うのであるが、その順位づけは基本的に対象単位地域の評価に基づくものであり、その評価は地理教育などによって獲得された知識やその場所に対するイメージなど

に基づいていると考えられる。したがってメンタルマップ研究にとって、場所イメージや場所評価の研究は不可欠であり、多くの研究¹²⁾が進められてきている。しかし、この二つの研究を関連付けながら同時に行ってきたものは、ほとんど見あたらない。

そこで本稿では、福岡県を対象地域として、高校生の居住地選好体系からみたメンタルマップの特徴を明らかにすると共に、選好単位地域の評価とイメージをあわせて分析することにより、場所に対するイメージや評価が、メンタルマップの形成にどのような関係にあるかを、明らかにしたい。また、妥当だと判断される場所評価の前提となる正確な地域認識に対して、地理教育が果たす役割についても、可能な限り言及してみたい。

I. 研究対象地域の概観と研究方法

1. 福岡県の概観

今回研究対象地域とする福岡県は、九州の北東部に位置するわが国で9番目に人口の多い県¹³⁾で、九州地方の最も重要な拠点県である。かつてはわが国最大の産炭地域、鉄鋼生産地域として、戦前戦後を通じて経済発展に重要な役割を果たしてきたが、近年では九州経済・流通の中核として、その性格を変化させてきている。県内は北九州地区、筑豊地区、福岡地区、筑後地区という4地区に分けられるが、後述するように、それぞれの地区には明確な特色が見られ、複雑かつ特徴のある県構造を示している。そこで本稿では、4地区によって、メンタルマップがどのように異なるかということについても注目しながら、分析を進めていくこととし、各地区の特徴について、まず概観¹⁴⁾しておきたい。

最初に北九州地区は、1963(昭和38)年に門司、小倉、戸畑、八幡、若松の5市が対等合併して成

立した、わが国7番目の100万都市である北九州市を中心とする地区で、県の北東部を占める。北九州工業地帯は、かつてはわが国4大工業地帯の一つとして、鉄鋼業や化学工業を中心に発展し、素材供給型の大企業工場群が臨海部に展開する工業地帯であった。しかし現在では、その地理的位置や産業構造上の問題などから、日本工業におけるその相対的地位を大きく低下させている。中心都市である北九州市では人口、市勢が低迷¹⁵⁾しており、「北九州ルネサンス構想」などによって、単なる工業都市からの脱却を試みているが、重化学工業都市のイメージは依然として強い。

次に筑豊地区は、その名称からも推察されるように、筑前と豊前の境界に位置し、遠賀川流域がその範囲である。この地区はわが国最大の筑豊炭田が存在し、わが国のエネルギー供給基地として、直方、飯塚、田川の筑豊三都を中心に1950年代までは活況を呈していたが、エネルギー革命によって炭鉱が次々に閉山して急速に衰退し、現在に至っている。そこで地域の復興をめざして、この間企業誘致などの様々な地域振興が図られてきたが、人口が減少したままの市町村¹⁶⁾も多い上に、依然として失業者なども多く、鉱害も多く残存するなど、そのイメージは決して明るくはない。

福岡地区は、九州地方の広域中心都市として著しい発展を遂げてきている福岡市を中心とする地区で、県内では唯一人口増加と経済成長が盛んな地区である。福岡市は、商業や流通を中心とする経済だけでなく、情報、文化、教育、娯楽などの多様な都市機能を充実させてきており、その都市的魅力によって多くの人間を集積させ、北九州市を上回る100万都市に成長¹⁷⁾してきている。したがって周辺地域には春日、大野城、太宰府、筑紫野、前原、宗像などの衛星都市が発展し、都市化のイメージが強いが、製造業の展開はそれほど活発ではなく、北九州地区とは対照的である。

最後に筑後地区は、ゴム工業の久留米市や、化学、金属工業の大牟田市、家具工業の大川市など、全国的に知られた工業都市も存在するが、全体的には筑後川や矢部川流域の平坦地を中心に展開する農業地帯として知られ、茶、果物、花卉、苗木栽培などは全国的にも有名である。ただ筑後地区においても、山間部を中心に過疎化が進行しており、そのイメージは必ずしも明るいとは言えない。

2. 研究方法と手順

本研究では、居住地選好のアンケートを使用し、福岡県のメンタルマップの空間的パターンを

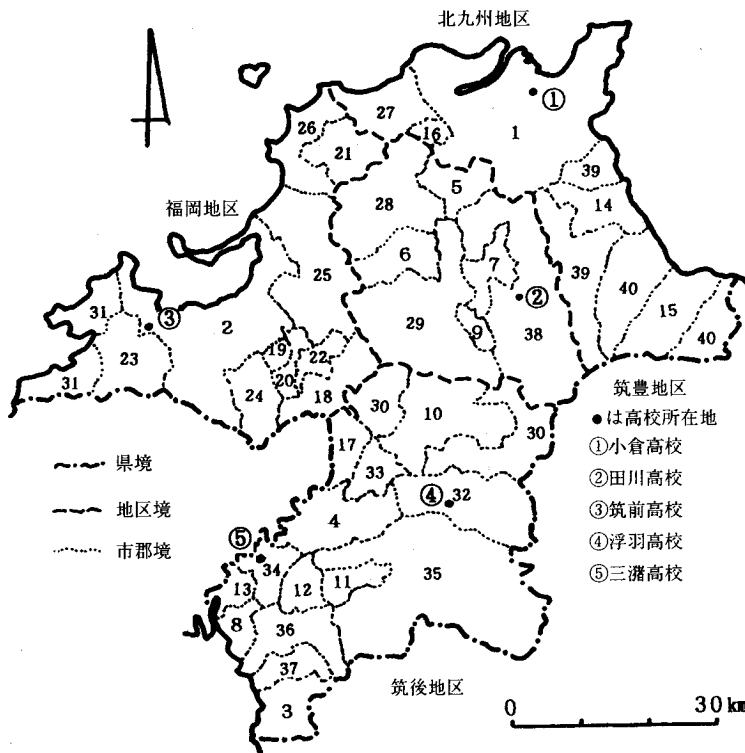


表1 対象市郡名

- | | |
|---------|----------|
| 1. 北九州市 | 2. 福岡市 |
| 3. 大牟田市 | 4. 久留米市 |
| 5. 直方市 | 6. 飯塚市 |
| 7. 田川市 | 8. 柳川市 |
| 9. 山田市 | 10. 甘木市 |
| 11. 八女市 | 12. 筑後市 |
| 12. 大川市 | 14. 行橋市 |
| 15. 豊前市 | 16. 中間市 |
| 17. 小郡市 | 18. 筑紫野市 |
| 19. 春日市 | 20. 大野城市 |
| 21. 宗像市 | 22. 太宰府市 |
| 23. 前原市 | 24. 筑紫郡 |
| 25. 粕屋郡 | 26. 筑紫郡 |
| 27. 遠賀郡 | 28. 鞍手郡 |
| 29. 嘉穂郡 | 30. 朝倉郡 |
| 31. 糸島郡 | 32. 浮羽郡 |
| 33. 三井郡 | 34. 三潞郡 |
| 35. 八女郡 | 36. 山門郡 |
| 37. 三池郡 | 38. 田川郡 |
| 39. 京都郡 | 40. 築上郡 |

※番号は図中の番号に一致する。

図1. 対象地域概観図

示すと共に、上述したように特徴が大きく異なる4地区によって、その空間的パターンに差異があるのかを明らかにしたい。あわせて、そのメンタルマップ形成に作用していると思われる、場所評価と場所イメージについて検討したいと考え、4地区、5校¹⁸⁾(筑後地区は2校)の高校1年生を対象にアンケートを実施し、分析を行うことにした。

まずアンケートの内容は、福岡県内の40市郡¹⁹⁾(23市17郡)を列挙した上で、「もしあなたが、実際の生活に全く関わりなく、自由に選べるならば」という条件で、住みたい順に1~40までの順番をつけてもらい、次いでそれぞれの市郡について5段階で評価をしてもらう²⁰⁾と共に、それぞれの市郡について、思いつくことがあれば何でもいいから簡単な言葉で表現するというものである。アンケートの対象を高校生としたのは、高校生であれば県内の市郡については、小中学校での地理教育を通して一応の知識が出来上がっているものと思われるし、一般市民と比較すると、一定量の資料収集が比較的容易であるという調査上の事情もある。なお、図1と表1は、対象40市郡名とその位置ならびに対象高校の位置を示している。

次に具体的な分析方法について述べると、まず各市郡の順位、評価について、その平均と標準偏差を求めた上で、居住地選好を示した順位については、高校毎に市郡を縦軸に、個人を横軸にした順位行列を作成し、その行列を相関係数行列を使用した主成分分析にかけて、主要な成分を抽出した。そしてその主要な成分について、成分得点を地図化しながら高校毎のメンタルマップを分析すると共に、全体の一般的メンタルマップを検討する。次いで成分得点と平均評価との関係を分析すると共に、評価のもとになっていると思われるイメージを具体的に表現した言葉についても、あわせて検討し、どのような情報、教育などによって地理的イメージが形成され、それがどのように評価につながり、さらに居住地選好、ひいてはメンタルマップにつながっていくかを、考えてみる。そして、この分析過程で、正確な地域認識を与えるための地理教育の役割についても、若干検討してみたい。

ところで本稿では、主成分分析を行う際に、グールドや中村が採用した順位相関²¹⁾ではなく、順位をそのまま量データとして計算し、通常相関係数を分析に使用しているが、データが40もあれば、2つの相関係数は極めて類似することと、本稿で使用したソフト²²⁾が、順位相関では主成分分析作業が極めて煩雑になる²³⁾という事情による。また

メンタルマップ化についても、グールドが行った最も好ましい地域を100とする得点化による地図化²⁴⁾をせずに、成分得点をそのまま地図化している。この場合、居住地選好の高い市郡の得点がマイナスの数値を取る²⁵⁾という問題はあるが、ここでも作業の簡素化のために、算出された成分得点をそのまま採用することとした。さらに本アンケートの作成において、対象市郡を国勢調査等で表記される大都市が上位にくる順番に並べてしまったために、生徒がこの順番に影響されてしまうのではないかという指摘が、アンケートを依頼した先生方よりあった。この問題については、まず明らかにアンケートの配列順位に影響されていると思われるデータを分析から除外した。その上で、市郡の配列順位と記入された平均順位間の相関係数を計算してみると、最高が小倉男子の0.734、最低が田川男子の0.526であり、一定の相関関係にあることは否定できない²⁶⁾が、居住地選好順位に市部と郡部、すなわち都市と農村との間で違いが出てくることは、ある程度は当然であるとも言え、今回の分析では、一応この点に留意しつつ、分析を進めることとした。

Ⅱ. 居住地選好からみた福岡県のメンタルマップ

ここでは、各校の分析結果をもとに福岡県のメンタルマップの空間的パターンについて、中村の例²⁷⁾にならい、成分2で示される第2次元までのメンタルマップを検討する。また地理的空間知覚については、男女差の存在がこれまでの研究でも指摘されている²⁸⁾ので、男女差についても、一定の検討を加えていく。

1. 第1次元のメンタルマップ

①北九州地区からの見方(対象38名、男子17名、女子17名、不明4名)

北九州地区の高校生の場合、成分1は固有値が14.33、寄与率が37.7%を占める重要成分であるが、その成分得点は表2に整理した。そしてメンタルマップを分かりやすくするために、得点を地図化したのが図2である。これによれば、北九州市と福岡市で得点のマイナスが高く、次いで太宰府市、久留米市が続く、行橋市、柳川市の選好も高い。一方、三潞郡、三池郡、山田市、山門郡、朝倉郡、三井郡、田川郡の選好が低く、山田市、田川郡を除けば、いずれの郡も筑後地区に含まれている。したがってその空

表2 成分1の成分得点

市郡名	北九州	筑豊	福岡	浮羽	三潞	総合
1. 北九州市	-2.567	-1.996	-1.571	-1.707	-2.056	-2.238
2. 福岡市	-2.546	-2.172	-2.306	-2.286	-2.457	-2.659
3. 大牟田市	-0.522	-0.616	-1.019	-0.932	-0.562	-0.821
4. 久留米市	-1.595	-1.664	-1.396	-2.131	-2.346	-2.061
5. 直方市	-0.604	-1.078	-0.239	-0.226	-0.491	-0.583
6. 飯塚市	-0.781	-1.784	-0.643	-0.598	-0.525	-0.951
7. 田川市	0.321	-1.287	0.466	0.532	0.339	0.120
8. 柳川市	-1.041	-0.452	-1.222	-1.046	-1.363	-1.171
9. 山田市	1.305	1.241	0.676	0.393	0.506	0.924
10. 甘木市	-0.324	0.403	0.013	-1.052	-0.343	-0.309
11. 八女市	-0.978	-0.245	-0.971	-0.355	-0.511	-0.703
12. 筑後市	-0.123	0.233	-0.169	-0.297	-0.456	-0.193
13. 大川市	0.582	1.031	0.579	0.088	-0.698	0.337
14. 行橋市	-1.080	-0.875	0.151	0.247	0.272	-0.283
15. 豊前市	0.200	0.752	0.560	0.291	0.092	0.414
16. 中間市	-0.445	-0.355	0.100	0.490	0.223	0.006
17. 小郡市	0.292	0.746	-0.146	-1.092	-0.709	-0.222
18. 筑紫野市	-0.075	0.299	-0.227	-0.922	-0.519	-0.337
19. 春日市	0.003	-0.310	-0.849	-0.907	-0.686	-0.618
20. 大野城市	-0.307	0.002	-0.744	-1.017	-0.376	-0.558
21. 宗像市	-0.706	-0.337	-0.734	-0.120	-0.306	-0.502
22. 太宰府市	-1.679	-1.521	-1.446	-1.343	-1.459	-1.680
23. 前原市	0.166	0.851	-1.513	0.362	0.127	-0.020
24. 筑紫郡	0.356	0.078	-0.066	0.408	-0.017	0.174
25. 粕屋郡	0.477	0.638	-0.139	0.619	0.244	0.408
26. 宗像郡	0.494	0.280	-0.365	0.612	0.577	0.364
27. 速賀郡	-0.264	-0.304	0.445	0.857	0.721	0.336
28. 鞍手郡	0.815	-0.205	0.627	1.148	1.091	0.808
29. 嘉穂郡	0.289	-0.455	0.432	1.075	1.377	0.637
30. 朝倉郡	1.256	0.802	1.055	-0.173	0.643	0.814
31. 糸島郡	0.672	1.052	-0.915	1.087	1.416	0.740
32. 浮羽郡	0.925	0.932	1.033	-0.926	0.862	0.638
33. 三井郡	1.218	1.481	1.385	0.740	1.072	1.322
34. 三潞郡	1.551	1.394	1.434	1.184	-0.152	1.210
35. 八女郡	0.144	0.163	0.484	0.595	0.443	0.414
36. 山門郡	1.277	1.599	1.456	1.384	0.754	1.447
37. 三池郡	1.415	1.357	1.525	0.896	1.346	1.475
38. 田川郡	1.128	-0.942	1.450	1.446	1.558	1.096
39. 京都郡	-0.119	0.541	1.308	1.184	0.865	0.845
40. 築上郡	0.875	0.722	1.500	1.493	1.504	1.382

間的パターンは、都市部および近隣地域での選好が高く、郡部および遠隔地域である筑後地区の選好が低い形になっている。ただ山田市と田川郡は、高校所在地から比較的近いにも関わらず、選好が低くなっており、筑豊地区に対する評価の問題との関連が考えられるし、筑後地区では柳川市の選好が高いことが注目される。

ところで男女差については、男女別に主成分分析した場合の成分得点間の相関係数が0.904と高い上に、全員を対象とした分析の成分得点

との相関も極めて高く²⁹⁾、同一の成分が抽出されていると判断され、男女差はほとんど認められない。

②筑豊地区からの見方

(対象36名、男子15名、女子21名)

筑豊地区の場合も、成分1の固有値が16.11、寄与率が44.8%と、その比重が大きいのが九州の場合と同様に成分得点を地図化したのが図3である。ここでも福岡市の選好が高く、以下北九州市、飯塚市、久留米市、太宰府市、田川

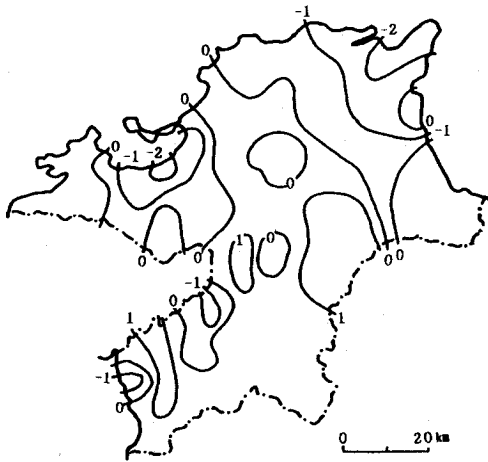


図2 北九州地区のメンタルマップ

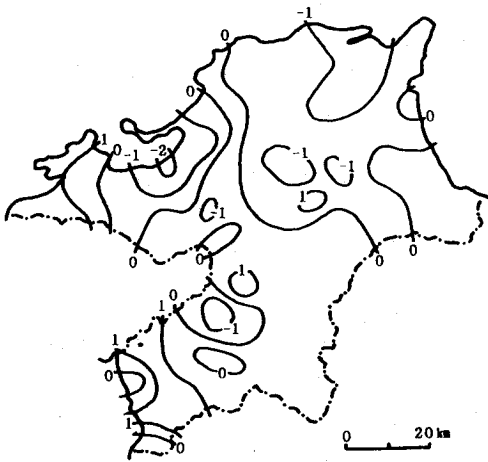


図3 筑豊地区のメンタルマップ

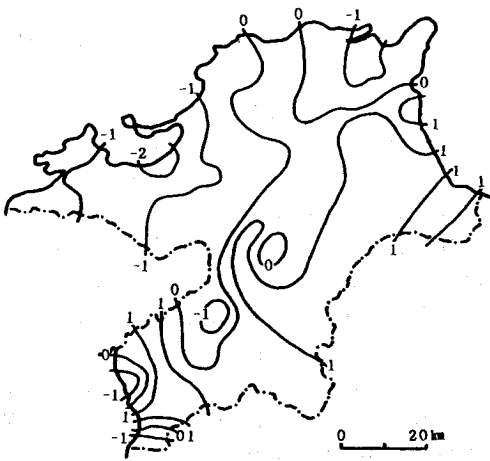


図4 福岡地区のメンタルマップ

市、直方市の順になっており、一方選好の低い場所は、山門郡を筆頭に三井郡、三潞郡、三池郡、山田市、糸島郡、大川市の順で、選好の高い場所に地元である筑豊三郡が選好されているのが、大きな特徴となっている。

したがってその空間的パターンは、北九州の場合と同様に都市部と近隣地域の選好が高く、郡部と遠隔地域の選好が低い形になっているが、地元地区の選好が他の地区の場合よりも強いように思われる。ただ同じ筑豊でも山田市の選好が低いことは、田川郡の選好が決して低くないことと好対照であり、全国で2番目に人口が少ない都市という事実が、その選好、評価に大きな影響を与えていることは確かであろう。次に男女差については、北九州の場合と同様に相関係数が0.921と高く、その差はほとんど認められない。

③福岡地区からの見方

(対象34名、男子22名、女子12名)

福岡地区の場合も、成分1の固有値は16.49、寄与率が48.5%と、大きな意味を持つ成分が抽出されているが、その成分得点の地図は図4である。これによれば選好の高い市郡は、福岡市、北九州市、前原市、太宰府市、久留米市、柳川市、大牟田市の順になっており、高校に近い前原市が選好され、糸島郡の選好も比較的高くなっているのは、これまで述べてきた傾向と極めて類似した選好であることを示している。一方選好の低い場所も、三池郡、築上郡、山門郡、田川郡、三潞郡、三井郡、京都郡、朝倉郡、浮羽郡の順になっており、北九州、筑豊地区での傾向と類似しているが、山田市の選好の低さは両地区ほどではない。

したがって都市部と近隣地域で高く、郡部と遠隔地域で低いという空間的パターンも前二者に類似しているが、市郡の対比関係がより鮮明になっているように思われる。また男女差についても、その差は認められない。

④筑後(浮羽)地区からの見方

(対象39名、男子30名、女子9名)

筑後(浮羽)地区の場合も、成分1の固有値は16.49、寄与率が42.2%と、その主成分分析における比重は大きい。図5に示した成分得点によれば、やはり都市部の選好が高く、福岡市を筆頭に、久留米市、北九州市、太宰府市、小郡市、甘木市、柳川市、大野城市の順で選好されているが、福岡市南部に展開する衛星都市群の選好が比較的高いことが大きな特徴になって

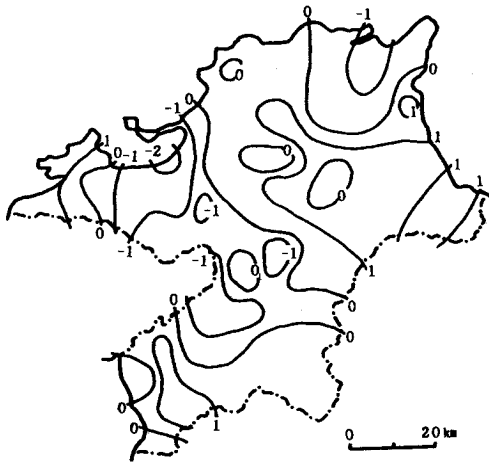


図5 浮羽地区のメンタルマップ

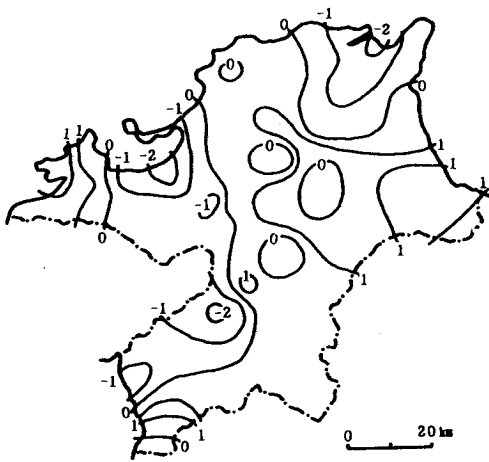


図6 三瀨地区のメンタルマップ

いる。一方選好の低い場所は、築上郡を筆頭に、田川郡、山門郡、三瀨郡、京都郡、鞍手郡、糸島郡、嘉穂郡となっており、遠隔地域と郡部の選好が低くなっているが、やはり浮羽郡の得点はマイナスであり、学校所在地は居住地選好から言えば、当然高い評価を受けている。

したがってメンタルマップの空間的パターンは、これまでの分析と基本的に同じであるが、他地区の場合と比較して、近隣地域の郡部に対する選好が比較的低いことが、特徴と言えるかも知れない。また男女間の差も、男女の対象数に大きな差はあるが、これまでの地区の場合と同様に認められない。

⑤筑後（三瀨）地区からの見方

（対象35名、男子16名、女子19名）

筑後（三瀨）地区の場合も、成分1の固有値は13.03、寄与率が37.2%と、大きな比重を持つ成分が抽出されている。図6をみると、選好の高い市郡は、福岡市、久留米市、北九州市、太宰府市、柳川市の順になっているが、他の地区でみられた高校所在郡の選好が余り高くはないのが特徴である。一方選好の低い場所は、田川郡、築上郡、糸島郡、嘉穂郡、三池郡、鞍手郡、三井郡などの郡部であるが、浮羽の場合よりも近隣地域の郡部に対する選好がさらに高くはないように思われる。

したがって三瀨からみたメンタルマップの空間的パターンは、市郡部で選好に差がある形になっている。次に男女差であるが、相関係数が0.814と最も高くなく、男女によるメンタルマップに多少の差があるのではないかと判断される。そこで成分得点の差が大きい市郡を見てみると、大牟田市、八女郡、山門郡、三池郡などの筑後地区の市郡で、女子の選好が低く³⁰⁾なっており、平均順位においても、これらの市郡で順位が男子に比べて下位³¹⁾になっている。つまり三瀨の場合、女子の地元志向が余り強くないと言え、それが全体のメンタルマップにも多少影響を与えているように思われる。

2. 第2次元のメンタルマップ

次に成分2の成分得点に基づく第2次元のメンタルマップを検討していくわけであるが、表3に示した得点を見てみると、各地区による差異が大きく、またその解釈も簡単ではない。これは中村が日本全体で行った事例³²⁾とはかなり異なった結果となっているが、対象空間範囲の大小による差異なのかも知れない。したがってここでは、各地区のメンタルマップの特徴について、ごく簡単に概観するとどめておきたい。

①北九州地区からの見方

北九州の第2次元のメンタルマップは、田川市、大野城市、春日市、筑紫野市、京都郡、田川郡、前原市での選好が高く、福岡市周辺の衛星都市群と筑豊東部から北九州中部の地域が選好されている。一方選好の低い地域は、宗像郡、遠賀郡、八女郡、嘉穂郡、山門郡などの郡部であり、八女、山門両郡を除けば、選好の低い地域が2つの選好の高い地域にはさまれた形になっている。次に男女差についてみてみると、両者の得点の相関係数は0.175と極めて低く、かつ全体の得点との相関係数も、それぞれ-0.689、-0.753と負の値を示し、それぞれ異なる成分が

抽出されているようである。この傾向は他の地区でも認められるために、メンタルマップにおける男女差は、今回の研究では、第2次元のメンタルマップにおいて示されているものと思われる。しかし、第2次元のメンタルマップは解釈が困難なものが多いために、男女差の問題については、主にⅢ章の場所評価をめぐる検討の場で、考察を加えてみたい。

②筑豊地区からの見方

筑豊では地元である田川郡の選好が最も高いのに続いて、浮羽郡、糸島郡、鞍手郡、京都郡、八女郡と郡部が選好されるのに対して、選好の低い地域は柳川市以下、八女市、春日市、大川市、筑紫野市、豊前市、中間市、甘木市、大野城市といった市があげられ、北九州の場合とは異なり、市部と郡部を両極とするメンタルマッ

表3 成分2の成分得点

市 郡 名	北九州	筑 豊	福 岡	浮 羽	三 瀨	総 合	
						成分1	成分2
1. 北九州市	0.242	0.214	-0.114	-0.037	0.150	-0.013	0.097
2. 福岡市	0.230	-0.030	-0.275	-0.315	0.064	-0.271	0.114
3. 大牟田市	0.586	0.838	0.799	-0.693	-0.973	-0.232	-1.244
4. 久留米市	0.013	0.324	1.019	-0.151	-0.456	0.194	-0.865
5. 直方市	-0.267	0.403	0.884	0.535	1.017	0.938	0.113
6. 飯塚市	0.923	-0.507	0.391	-0.372	0.758	-0.328	0.325
7. 田川市	-1.992	-0.649	1.057	0.254	0.532	0.943	-0.230
8. 柳川市	-0.354	1.667	0.517	-0.891	-1.339	0.103	-1.661
9. 山田市	0.981	-0.324	1.116	-0.042	0.406	-0.047	-0.164
10. 甘木市	0.135	1.025	0.471	-0.877	-0.421	-0.044	-0.942
11. 八女市	0.017	1.488	0.307	-0.162	-1.469	0.137	-1.334
12. 筑後市	-0.129	-0.014	1.840	-0.159	-1.057	0.184	-1.518
13. 大川市	-0.216	1.459	1.051	0.158	-0.880	0.682	-1.324
14. 行橋市	0.160	-0.428	0.460	1.587	0.867	0.806	0.796
15. 豊前市	0.445	1.215	1.275	0.151	0.421	0.774	-0.625
16. 中間市	-0.973	1.147	0.386	0.650	1.219	1.387	0.234
17. 小郡市	0.688	0.699	0.652	0.761	-0.127	0.470	-0.275
18. 筑紫野市	-1.546	1.340	1.133	2.096	1.399	2.481	0.254
19. 春日市	-1.791	1.466	0.671	1.302	0.978	2.044	-0.019
20. 大野城市	-1.826	1.000	0.811	2.235	0.877	2.296	0.235
21. 宗像市	0.775	0.320	-0.402	0.206	1.276	0.164	0.927
22. 太宰府市	-0.353	-0.211	-0.023	0.371	0.460	0.308	0.370
23. 前原市	-1.006	0.712	-1.274	0.815	1.208	0.880	1.202
24. 筑紫郡	0.032	-0.230	-1.493	0.661	0.422	-0.098	1.207
25. 粕屋郡	0.657	0.045	-2.421	0.304	0.837	-0.493	1.782
26. 宗像郡	2.513	-0.332	-1.119	0.333	0.948	-0.838	1.501
27. 遠賀郡	2.045	-0.671	-1.876	0.216	1.311	-0.957	2.065
28. 鞍手郡	-0.750	-1.302	-1.563	-0.145	0.281	-0.599	1.124
29. 嘉穂郡	1.182	-0.872	-0.188	-0.087	0.553	-0.622	0.705
30. 朝倉郡	-0.336	0.151	-0.466	-2.470	-0.252	-1.054	-0.671
31. 糸島郡	0.651	-1.575	-2.481	0.512	0.562	-1.040	2.131
32. 浮羽郡	0.075	-1.839	-0.784	-3.126	-0.638	-2.317	-0.356
33. 三井郡	0.427	-0.452	-0.102	-0.720	-0.638	-0.781	-0.325
34. 三瀨郡	-0.418	-0.309	0.335	0.097	-2.275	-0.423	-1.294
35. 八女郡	1.482	-1.046	-0.287	-1.636	-2.132	-2.135	-1.007
36. 山門郡	1.135	-0.119	0.362	-0.682	-2.091	-1.130	-1.308
37. 三池郡	-0.544	-0.525	0.352	-0.960	-1.425	-0.673	-1.116
38. 田川郡	-1.250	-2.945	-0.111	0.537	-0.341	-0.488	0.629
39. 京都郡	-1.405	-1.278	-0.285	-0.269	-0.093	-0.190	0.183
40. 築上郡	-0.238	0.144	-0.625	0.015	0.062	-0.016	0.284

プの空間的パターンが認められる。男女差については北九州ほど極端ではなく、ある程度の共通性もあるように思われる。

③福岡地区からの見方

次に福岡地区の場合、まず選好の高い地域が糸島郡以下、粕屋郡、遠賀郡、鞍手郡、筑紫郡、前原市、宗像郡といった地区内および周辺の郡部に集中しており、近隣郡部に対する選好が明確である。一方選好の低い地域は、筑後市以下、豊前市、筑紫野市、山田市、田川市、大川市、久留米市といった市になっており、筑豊の場合と都市名は異なっているが、ここでも市部の選好が低いメンタルマップが形成されており、その空間的パターンは筑豊の場合と類似しているように思われる。また男女差については、男女によって全く異なる成分が抽出されているようであるが、女子のメンタルマップは全体のものに類似している。

④浮羽地区からの見方

浮羽の場合は、選好の高い地域と逆に低い地域が余り多くなく、選好の差が小さいメンタルマップになっている。まず選好の高い地域は浮羽郡、朝倉郡、八女郡であり、近隣の郡部が選好されている。一方選好の低い地域は大野城市、筑紫野市、行橋市、春日市があげられ、福岡市南部の衛星都市群の選好が低い空間的パターンを示している。男女差については、対象人数に占める男子の数が多いために全体のメンタルマップと男子のメンタルマップは極めて類似しているが、女子のものとはやはり異なっている。

⑤三潞地区からの見方

三潞の場合、まず選好の高い地域は、三潞郡、八女郡、山門郡、三池郡の近隣郡部があげられる一方で、八女市、柳川市、筑後市が選好されており、地元志向が著しく強くなっている。一方選好の低い地域は筑紫野市以下、遠賀郡、宗像郡、中間市、前原市、直方市となっており、福岡地区から筑豊地区にかけての地域で選好が低いという空間的パターンのメンタルマップになっている。また男女差については、浮羽の場合と同様に、全体のメンタルマップと男子のメンタルマップが類似しているが、女子のものとはやはり大きく異なったものになっている。

3. 福岡県の一般的メンタルマップ

①第1次元の一般的メンタルマップ

福岡県の一般的メンタルマップを求めるために、ここでは各地区の成分1の成分得点を再度

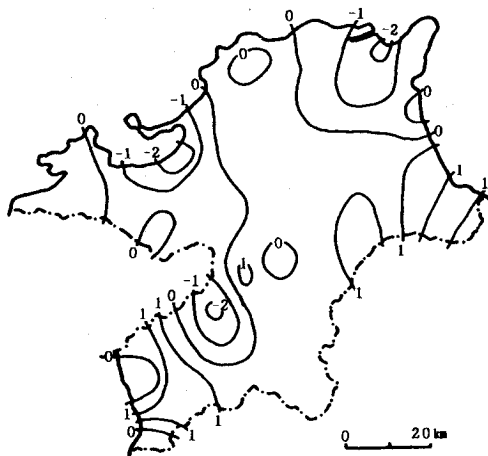


図7 福岡県のメンタルマップ (第1次元)

主成分分析にかけ、主要な成分を抽出した。各地区の成分得点と総合された成分得点は表2に示されているが、総合した成分得点を一般的メンタルマップとして図化したのが、図7である。主成分分析の結果によれば、最高の北九州地区が0.9402、最低の筑豊地区でも0.7964という高い負荷量を示し、78.6%の寄与率を有する成分が一つ抽出された。したがって福岡県の一般的メンタルマップは極めて一般性が高いと言える。

まず選好の高い地域をみてみると、福岡市を筆頭に、北九州市、久留米市、太宰府市、柳川市という順になっており、大都市および観光的要素を持った市が選好されていることが分かる。一方選好の低い地域は、三池郡以下、山門郡、筑上郡、三井郡、三潞郡、田川郡の順になっており、筑後地区を中心に郡部の選好が低くなっており、郡部は得点が全て正である。したがって福岡県の一般的メンタルマップの空間的パターンは、福岡市、北九州市という大都市とその周辺都市や、観光的要素を持った太宰府市、柳川市などの都市群が居住地として選好される一方で、筑後を中心に郡部の選好が低く、個別の地区のメンタルマップでは現れていた地元志向が消された形で、居住選好をめぐる市部郡部の関係、言い替えると都市農村関係を示していると判断できる。

②第2次元の一般的メンタルマップ

第1次元の場合と同様に、各地区の成分2の成分得点を再度主成分分析にかけてみると、第1次元の場合とは異なって、2つの成分が抽出された。その結果を示したのが表4であるが、成分1は浮羽、筑豊に正の関係を、北九州に負

表4 成分2の主成分分析結果

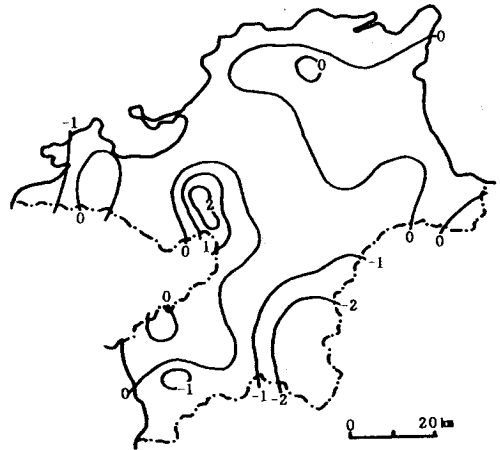
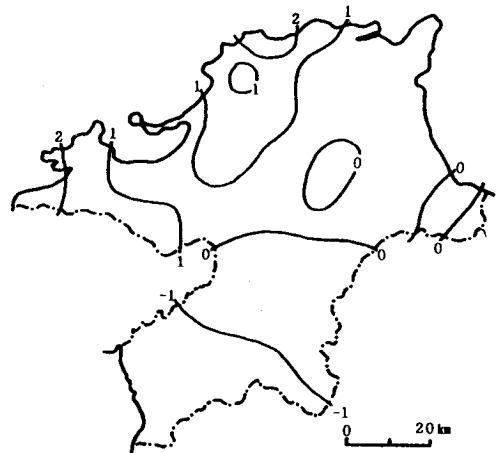
変数	成分1	成分2
北九州	-0.6132	0.1631
筑豊	0.6439	-0.3729
福岡	0.4988	-0.7378
浮羽	0.7893	0.4195
三潞	0.4851	0.7771
固有値	1.8978	1.4899
寄与率(%)	37.96	29.80

の関係を持つ成分であり、寄与率は38.0%に達している。次に成分2は三潞に正で、福岡に負の関係を持つ成分で、寄与率は29.8%とこちらもかなり大きい値を示している。したがって第2次元の一般的メンタルマップは、一般的とはいえないのではあるが、一応その特徴を簡単に見ておきたい。

まず成分1の一般的メンタルマップは図8に示したようであるが、選好の高い地域として浮羽郡、八女郡、山門郡、朝倉郡、糸島郡といった筑後地区を中心とした郡部が、一方、選好の低い地域としては、筑紫野市、大野城市、春日市、中間市といった福岡市南部の衛星都市群を中心とする市部があげられ、浮羽の第2次元のメンタルマップとある程度類似した空間的パターンになっている。また図9に示した成分2の一般的メンタルマップについては、まず選好の高い地域は、山門郡、三潞郡、三池郡、八女郡といった筑後郡部と柳川市、筑後市、八女市、大川市、大牟田市といった筑後の都市群であり、一方選好の低い地域は、糸島郡を筆頭に遠賀郡、粕屋郡、宗像郡、筑紫郡、前原市、鞍手郡の福岡地区から北九州地区にかけての郡部であり、こちらの方は三潞の第2成分のメンタルマップに類似した空間的パターンとなっている。

したがって上述したように、一般的メンタルマップとは必ずしも言えないのであるが、県レベルでのメンタルマップでは、第2次元のメンタルマップに、各地区の特徴が反映されているということなのかも知れない。つまり第1次元のメンタルマップとは違って、地元や郡部が評価されるメンタルマップが抽出されているようである。

次に第2次元のメンタルマップで、重要と思われる男女差の問題であるが、男子と女子の場合の成分2について、それぞれ別に主成分分析を実施してみると、男子では3つの成分、女子

図8 福岡県のメンタルマップ
(第2次元成分1)図9 福岡県のメンタルマップ
(第2次元成分2)

では2つの成分が抽出され、明らかに異なるメンタルマップが形成されていることが分かる。しかし、主要な第1次元の一般的メンタルマップが1つであることもあり、今回の分析においては、居住地選好における男女差、ひいてはメンタルマップにおける男女差の存在を、指摘しておくにとどめたい。

Ⅲ. 選好順位と場所評価

前章においては、選好順位データに基づく主成分分析により、居住地選好からみたメンタルマップについて検討してきたが、ここでは、個々人が選好の順番を決定する際に、重要な基準をなすと考えられる場所の評価について検討を加えることとし、より具体的には、平均順位と平均評価との

表5 平均選好順位

市郡名	北九州	筑豊	福岡	浮羽	三潞	総合
1. 北九州市	1.68	5.92	8.33	8.15	6.00	5.97
2. 福岡市	1.97	4.56	1.45	2.92	2.57	2.71
3. 大牟田市	17.68	16.61	12.67	14.51	17.29	15.80
4. 久留米市	9.92	8.25	10.06	4.67	3.69	7.28
5. 直方市	16.97	13.44	19.18	18.87	17.66	17.21
6. 飯塚市	15.45	8.14	15.67	15.90	18.26	14.68
7. 田川市	23.24	12.44	24.94	24.36	23.77	21.75
8. 柳川市	13.53	18.53	10.97	12.77	11.49	13.50
9. 山田市	28.58	29.31	25.24	22.87	24.74	26.14
10. 甘木市	17.71	24.22	20.76	13.23	18.66	18.78
11. 八女市	14.03	18.44	12.21	17.77	17.26	16.01
12. 筑後市	19.71	22.61	20.00	18.28	18.37	19.77
13. 大川市	24.74	28.98	25.21	21.46	15.80	23.23
14. 行橋市	13.50	14.01	22.33	23.41	23.51	19.28
15. 豊前市	21.66	26.50	25.67	22.95	22.69	23.83
16. 中間市	17.58	18.42	21.03	23.72	22.97	20.74
17. 小郡市	23.24	26.33	19.79	12.95	16.14	19.64
18. 筑紫野市	20.63	23.20	19.85	14.38	17.60	19.07
19. 春日市	20.95	18.61	14.45	14.28	16.57	17.02
20. 大野城市	18.61	20.50	15.03	14.03	18.00	17.23
21. 宗像市	16.37	18.97	14.24	20.13	18.34	17.69
22. 太宰府市	8.87	9.03	9.33	10.44	10.26	9.52
23. 前原市	22.24	27.97	9.12	23.10	21.03	20.94
24. 筑紫郡	23.45	21.03	19.97	23.46	20.34	21.73
25. 粕屋郡	23.66	24.92	18.58	24.74	20.97	22.69
26. 宗像郡	23.47	22.58	17.21	25.00	24.34	22.65
27. 遠賀郡	18.71	17.78	23.64	26.08	25.29	22.28
28. 鞍手郡	25.79	17.97	25.27	28.59	26.97	24.97
29. 嘉穂郡	22.63	16.56	23.24	27.69	29.37	23.93
30. 朝倉郡	29.24	25.17	28.67	18.82	24.20	25.11
31. 糸島郡	24.24	27.22	12.91	27.92	30.06	24.69
32. 浮羽郡	26.76	26.17	28.33	12.74	25.40	23.65
33. 三井郡	27.97	30.89	31.24	25.03	26.97	28.32
34. 三潞郡	31.05	30.00	31.21	29.03	19.09	28.12
35. 八女郡	21.50	20.67	23.12	24.15	23.31	22.55
36. 山門郡	28.92	32.00	32.18	30.56	24.80	29.68
37. 三池郡	30.26	30.00	32.24	26.62	29.31	29.60
38. 田川郡	28.00	12.39	31.33	30.77	30.89	26.66
39. 京都郡	19.55	23.11	29.82	28.77	25.49	25.27
40. 築上郡	25.71	25.58	31.58	31.38	30.74	28.95

関係を明らかにしてみたい。表5・6は地区別の平均順位、平均評価を示したものであるが、両者の間には強い相関関係が認められ、場所に対する評価が居住地選好の順位決定に、影響を与えていることが分かる。そこで地区別に場所評価の特徴について、以下で検討してみる。

1. 北九州地区の場合

まず順位と評価の相関係数は-0.900と負の相関が強く、予測されたような結果になっている。北

九州の場合、北九州市と福岡市の順位に差がほとんどないことが特徴の一つになっているが、評価についてもやはり差は一番小さく、北九州市の評価が高いことが分かる。ただ評価の標準偏差は北九州市の方が大きく³³⁾、北九州市に対する評価のばらつきが多少あることが示されている。ただ北九州の場合、各市郡に対する評価の標準偏差は一般的に小さくて、偏差が1以上の市郡は山田市、田川郡、京都郡³⁴⁾だけであるが、これが場所認識の程度とどのような関係にあるかは、これだけで

表6 平均評価

市 郡 名	北九州	筑 豊	福 岡	浮 羽	三 瀬	総 合
1. 北九州市	4.405	4.108	3.622	3.974	4.150	4.062
2. 福岡市	4.690	4.486	4.730	4.825	4.575	4.663
3. 大牟田市	3.262	3.676	3.286	3.275	3.179	3.332
4. 久留米市	3.690	4.000	3.618	4.525	4.450	4.067
5. 直方市	3.167	3.730	3.057	2.667	2.842	3.089
6. 飯塚市	3.024	4.135	3.000	2.923	2.868	3.182
7. 田川市	2.548	3.649	2.794	2.538	2.500	2.795
8. 柳川市	3.476	3.500	3.667	3.205	3.487	3.464
9. 山田市	2.476	2.135	2.657	2.410	2.300	2.394
10. 甘木市	2.976	3.229	3.000	3.410	2.795	3.079
11. 八女市	3.667	3.500	3.571	2.950	3.025	3.337
12. 筑後市	3.048	3.086	3.176	2.825	3.050	3.031
13. 大川市	2.786	3.029	2.848	2.718	3.350	2.947
14. 行橋市	3.286	3.686	2.879	2.487	2.550	2.968
15. 豊前市	3.000	3.029	2.794	2.462	2.475	2.746
16. 中間市	3.095	3.472	3.030	2.538	2.575	2.931
17. 小都市	3.024	2.971	2.970	3.590	3.075	3.132
18. 筑紫野市	2.976	3.171	3.061	3.615	3.000	3.164
19. 春日市	3.143	3.371	3.394	3.237	3.100	3.239
20. 大野城市	2.929	3.171	3.303	3.500	2.975	3.165
21. 宗像市	3.512	3.222	3.406	2.892	3.100	3.226
22. 太宰府市	4.143	4.111	3.853	4.000	3.825	3.990
23. 前原市	3.071	3.000	3.771	2.632	2.775	3.037
24. 筑紫郡	2.976	3.235	3.097	2.868	2.974	3.022
25. 粕屋郡	2.951	3.229	3.125	2.641	2.923	2.962
26. 宗像郡	3.049	3.314	3.212	2.825	2.850	3.037
27. 遠賀郡	3.073	3.371	2.912	2.538	2.775	2.926
28. 鞍手郡	2.805	3.412	2.688	2.385	2.775	2.801
29. 嘉穂郡	3.024	3.486	2.750	2.538	2.500	2.851
30. 朝倉郡	2.976	3.235	2.844	3.275	2.725	3.011
31. 糸島郡	3.000	3.029	3.512	2.378	2.425	2.855
32. 浮羽郡	2.902	3.059	2.606	3.625	2.564	2.962
33. 三井郡	2.854	3.000	2.563	2.737	2.590	2.750
34. 三瀬郡	2.732	2.941	2.688	2.385	3.450	2.844
35. 八女郡	3.122	3.382	3.235	2.590	2.875	3.027
36. 山門郡	2.650	3.118	2.697	2.333	2.650	2.677
37. 三池郡	2.732	2.971	2.485	2.487	2.600	2.654
38. 田川郡	2.341	4.081	2.515	2.359	2.350	2.716
39. 京都郡	3.095	3.088	2.719	2.487	2.575	2.791
40. 築上郡	3.000	3.057	2.750	2.205	2.375	2.668

は判断できない。

また評価の男女差については、両者の相関係数が0.869とかなり高く、女子の評価が郡部で多少高くなっているのが目につく程度で、男女差は余り無いように思われる。

2. 筑豊地区の場合

筑豊地区の場合も、順位と評価の相関係数は-0.915と高く、両者には強い関連があることが分かるが、他地区に比べると、福岡市の評価が余り

高くなく、筑豊三都および田川郡の評価が高いことが、特徴としてあげられる。特に飯塚市は選好順位では3位、評価では2位になっており、田川郡も評価では4.081と4点台を示している。評価においてこのような地元優先があるのにも関わらず、山田市の評価が2.135と最低であるのは、地元に対する場所認識が進んでいる結果とも考えられるが、北九州の場合とほぼ同様に、標準偏差が1以上の市郡は、北九州市、田川市、山田市、田川郡の4市郡³⁵⁾にすぎず、地元に対しては、評価

が個人によって異なる傾向があると判断できる。ただ評価全般については、2点台が4市郡³⁶⁾にとどまっており、各市郡に対する評価は、山田市を除けばそれほど厳しくはない。

また評価の男女差については、相関係数が0.847と高く、大きな差は認められないが、筑豊地区の場合は、都市部に対する女子の評価が一般的に高い傾向があるように思われる。

3. 福岡地区の場合

福岡地区の場合は、順位と評価の相関係数が-0.931と、さらに高くなっており、評価が順位に反映される傾向が強い。ここでは福岡市の評価が高い一方で、北九州市の評価は余り高くなく、その平均評価、順位も前原市や太宰府市と大差がない。また次いで福岡市近郊の春日市、大野城市や、柳川市、八女市の評価が高いが、後者の都市群は、北九州、筑豊の場合と同様に観光的要素が評価されているものと思われる。評価の個人差については前二者と同様に大きくなく、標準偏差が1以上の市郡は、北九州市と前原市³⁷⁾のみである。次に男女差については、相関係数が0.818と5地区の中では最も低く、男女差を検討する必要があるが、市部については男子の評価が高く、郡部については女子の評価が高いという、男女での市部と郡部に対する、すなわち都市と農村に対する評価傾向に違いがあるように思われる。

4. 浮羽地区の場合

浮羽地区の順位と評価に関する相関係数は-0.939と最も高く、順位と評価との関係は強いように思われるが、2点台の評価となっている市郡が27市郡もあり、各市郡に対する全般的評価は、筑豊地区と比べるとかなり厳しくなっている。その評価の特徴は、福岡市に次いで久留米市の評価が高いことであるが、その他では小郡市、筑紫野市、大野城市、太宰府市という福岡市南部から筑後にかけての衛星都市群と、甘木市、浮羽郡、朝倉郡の評価が高く、地元志向が一定認められる。評価の個人差については、標準偏差が1以上である市郡が13市郡とかなりあり、筑紫郡、粕屋郡、宗像郡、遠賀郡、朝倉郡、浮羽郡など、近隣の郡と大都市周辺郡について、評価が一定でないという結果になっているが、これも都市農村関係をめぐる選好傾向に、多少個人差があるものと判断される。

また男女差については、相関係数が0.877と5地区の中では最も強く、余り無いように見えるが、

全般的に女子の方が評価が高い傾向にあるように思われる。

5. 三潞地区の場合

三潞地区の場合も、前4者と同様に順位と評価の相関係数は-0.929と高く、その関係は浮羽の場合に多少近い。つまり、福岡市に次いで久留米市の評価が高く、次いで三潞郡や柳川市、大川市などの近隣の評価が高い一方、2点台の評価になっている市郡が26市郡もあり、浮羽と同様に全般的に各市郡に対する評価は厳しいものになっている。しかも評価の標準偏差が1以上を示す市郡が、19市郡と半数近くもあって、筑後の2校の場合、評価の個人差が大きいように思われる。このことは第2次元の一般的メンタルマップを検討した際に、成分1の負荷量が浮羽および田川と小倉を両極に、また成分2の負荷量が三潞と筑前を両極としていたことと、何らかの関係があるかも知れない。

いずれにしても評価の多様性は、地域認識の多様性につながっている可能性があり、高校における地理教育の成果がこのような形を取って出ているのかも知れない。男女差については相関係数が0.847と、浮羽の場合よりは多少低いのであるが、男女差が明確にあるとは言えず、やはり女子の方が多少評価が高い傾向にある程度の差にすぎない。

6. 総合順位と評価の関係

最後に、5校のデータを平均した総合順位と評価の関係を見てみると、その相関係数は-0.939と高く、評価と順位の間には関連性があることが改めて確認できる。また第1次元の一般的メンタルマップの得点と順位の間は、相関係数が実に0.997という極めて強い相関関係にあり、かつ得点と評価間の直接の相関係数も-0.922と高く、市郡の評価が居住地選好の順位、そしてメンタルマップに大きな影響を与えていることは、確かである。ただ総合評価の高い順にみても、福岡市に次いで小差ではあるが、久留米市が上位にきており、北九州市の評価が地元以外では余り高くなくことが分かる。以下太宰府市、柳川市、八女市、大牟田市の順に評価が高いが、太宰府市までと、それ以下では評価点にかなりの差があり、それは各地区での評価が柳川市以下では異なるためと考えられる。ただ大牟田市は、その基盤産業の不振から市勢が衰退しているのにもかかわらず、評価が比較的高いのは、最初に問題にしたアンケートの配列順が影響を与えているのかも知れない。

IV. 場所イメージと評価

本章では、上述のようなメンタルマップを形成する際に必要となる、地域に対する情報や知識、またその知識などから構成されるイメージについて、アンケートに記入された具体的な言葉を検討しながら、それらが場所の評価にどのような影響を与えているかを、明らかにして行きたい。

1. 北九州地区の場合

まず北九州市についての記述に注目してみると、地元の地名などの記述が最も多く、次いで「住みやすい」「スペースワールド」「リフレッシュ」「都会」など、北九州市を工業都市として認識している傾向はほとんど無い。ただ「やくざ」「発砲事件」など、1995年に多発した発砲事件が影響した記述も目についた。一方福岡市については、「都会」「九州の中心」「ドーム」などの記述が多く、大都市のイメージが定着しているように思われる。評価の高かった太宰府市、柳川市については、「太宰府天満宮」「川下り」などの観光要素の記述が多かったが、柳川の場合、「野球」「テニス」といった柳川高校との関連を示す記述も多く、同じ高校生として関心が高いことがうかがえた。

その他では久留米市の「ラーメン」、八女市郡の「お茶」、大川市の「ダンス」、大牟田市の「石炭」、三池郡の「炭鉱」などの記述が目されるが、これらはまさしく地理教育の成果といえるかも知れない。それ以外では、そのほとんどで「田舎」といった記述が目につく程度で、記述量は余り多くなく、北九州地区の生徒の場合、全般的に各市郡について、明確なイメージが形成されているとは言い難い状況にあるように思われる。

2. 筑豊地区の場合

まず北九州市については、「工業都市」という記述もあるが、「市民球場」「小倉競馬」「モノレール」など、多岐にわたっており、「暴力団」という記述も見られた。一方福岡市の場合は、「都会」「中心地」「ドーム」など大都市としての評価がみられる一方、「空気がいや」という記述もあり、5地区の中では福岡市の評価が最も低かったことと関連があると思われる回答が見られた。地元である田川市および郡については、「自然がいっぱい」「住みやすい」「田舎で空気がきれい」などといった地元評価と、「ガラが悪い」「こわい」「店がない」「暴走族」などの負のイメージも多く、この辺が市郡における評価の標準偏差が大き

かったことにつながるものと思われる。ただ筑豊地区の市郡において、炭鉱に関する記述がほとんど見られず、時代の変化を感じざるをえない。

また太宰府市、柳川市については、北九州の場合と同様に、「太宰府天満宮」「川下り」や、柳川高校関係の記述が見られ、八女市郡の「お茶」、三池郡の「炭鉱」といった記述もあるが、筑豊地区以外の市郡については、「都会」「田舎」「いいところ」「行ってみたい」「知らない」などの単純な記述が目立ち、北九州の場合と同様に、県下他地域の認識は弱いように思われる。

3. 福岡地区の場合

福岡地区の場合は、まず福岡市に関する記述の多さが目につくが、記述の中心は「ドーム」「タワー」「ダイエー」「ブルックス」などであり、高校生の関心が福岡市の新しいシンボルやスポーツに集まっていることが分かり、興味深い。一方北九州市については、「スペースワールド」の記述も多いが、「工業都市」「工業地帯」「八幡製鉄所」「新日鉄」「公害」「大気汚染」などの記述が中心であり、工業都市のイメージが強いように思われ、そのことが評価の低さにつながっているようである。次に評価の高い久留米市については、「ブリジストン」「ラーメン」「久留米高専」など、また柳川市については、「川下り」「水郷」「うなぎ」「クリーク」「野球部」「テニス部」など、多岐にわたっているが、太宰府市は天満宮関係一色である。

地元にあたる前原市については、「ちょっと田舎」としながらも「いいところ」という記述が多くて、評価の高さと標準偏差の大きさに対応しており、糸島郡については海に関する記述が多い。筑豊地区の市郡については、「暴力団」「不良」など、「こわいところ」というイメージがあるようで、これが評価の低さにつながっているようである。ただ前二者と比較すると、少数ながらも県域全体にわたって何らかのイメージにつながる記述があり、一定の地域認識が前二者の高校生よりはるかに思われる。

4. 浮羽地区の場合

浮羽の場合、まず北九州市については、「スペースワールド」が共通した言葉としてあげられているが、以下は「新日鉄」「住金」「八幡製鉄所」「鉄の都」「公害」など、工業都市のイメージを示す言葉が多く、福岡地区の場合と類似した傾向を示す。一方福岡市についても、福岡地区の場合と同様に、「ドーム」「タワー」「天神」、さらには

「イムズ」「ソラリア」「ビブレ」といった天神にあるビル名なども記述されており、その情報が豊かで、評価も高いことがよく分かる。久留米市についても、「ブリジストン」を始め、「一番街」「成田山」「久留米がすり」「ゴム」など記述量が多く、評価も高い。また地元である浮羽郡に関する記述は、「ぶどう」「柿」「フルーツ」「河童の里」「白壁」「植木」など多様であり、評価はかなり高い。次いで朝倉郡、三井郡に関する記述も多く、「三連水車」「温泉」「あげ」「ねぎ」や、「ポイ捨て禁止条例」「キリンビール」「飛行場跡」など詳しい。

また柳川、太宰府両市については、他の地区と同様に柳川高校関係、水郷関係、天満宮関係の記述が多く、柳川市の場合は、高校スポーツの観点からも評価されていると思われる。なお浮羽地区の特徴としては、小都市、筑紫野市、春日市、大野城市で、「ベッドタウン」「ニュータウン」などの記述が見られ、住宅地として高い評価が与えられていることである。浮羽の場合、記述の無い市郡も見られるが、他の地区でよくみられる「都会」「田舎」「知らない」などの記述がほとんど無く、福岡地区同様、県内の地域認識は一定あるように判断される。

5. 三潞地区の場合

三潞の場合、まず北九州市については、「工業と遊園地」という回答に代表される「スペースワールド」と「工業都市」などに関する記述が多い。福岡市については、「都会」「にぎやか」「栄えている」といった発展をイメージする言葉が多く記述されており、評価も高い。また久留米市についても、「よく行く」「住みやすい」「にぎやか」など、評価に結びつくイメージが記述されているのが特徴である。また太宰府市と柳川市については、他の地区と同様に、「天満宮」と「川下り」に関連する記述が多いが、柳川市については「不良が多い」「こわそう」などといった記述もあり、近接性に伴う情報の多さが、イメージや評価を多様にさせているようである。地元である三潞郡については、多くの生徒が「田舎」と回答しており、「ふるさと」「のどか」などのイメージが強いが、これが地元を「住みやすい」と感じている生徒と、「不便」と感じている生徒に分けているようで、評価の違いになって現れてきている。

その他の市郡については、他地区と同様に「知らない」「田舎」などの記述が目立つ一方で、回答量は比較的多く、県内地域に関する地域認識は

一定進んでいると判断される。個別の学校における地理教育の具体的なあり方については、ほとんど情報が無いために断定的なことは言えないが、地域教材を利用した地理教育の成果が出てきている可能性も、指摘できるのではないかとと思われる。

むすびにかえて

以上、福岡県下4地区の高校生に対して行った居住地選好に関するアンケートを使用した、メンタルマップとそれを形成する際の評価やイメージに関する研究を進めてきた訳であるが、その結果を概観することでむすびに変えたい。

居住地選好からみた第1次元の一般的メンタルマップの空間的特徴は福岡県の二大都市である福岡市と北九州市と筑後地区の中心都市である久留米市の評価が高く、次いで太宰府市、柳川市といった観光要素を持った都市の評価が高いことであり、市部に対して郡部の評価が低いという結果になった。これは男女差もほとんど無く、地区毎のメンタルマップとも極めて共通性の高い空間パターンを示した。これは県レベル位の範囲では、地域認識の地区間の差があまり出てこないということを示しているようである。次に第2次元の一般的メンタルマップにおいては、地元と郡部の評価が高い傾向にあるメンタルマップが2つ抽出され、地区による違いがかなり認められた。また男女差もあるようで、それらを含めた具体的なメンタルマップの違いについては、今回の分析ではほとんど言及することができなかったため、今後の課題ということにしておきたい。

次に評価については、評価と順位の間極めて強い関係があることが確認でき、場所に対する評価が居住地選好の基本的構造を決定するということが、明らかにできたと思われる。そして場所の評価をする際に、その根拠となる知識やイメージについては、今回の分析をみる限りでは曖昧なものが多く、それがそのまま評価に反映されているケースが多いようである。したがって正確で多様な情報、知識が、より客観的で正確なイメージを形成し、地域に対するより妥当な評価につながっていくということになる。それ故に正確な地域認識が、場所のイメージや評価の形成にとって重要であり、地理教育はそのような地域認識を与えるために、今後とも努力していく必要性が痛感される。

以上、福岡県のメンタルマップを明らかにしながら、地域認識とそこから形成される地域イメージの問題について検討してきたが、残された多く

の課題については、今後の研究で追求することとし、むすびとしたい。

データの再検討を含めて全面的に加筆、修正したもので、最終的な文責は石黒にある。なお本稿の作成にあたっては、対象高校の先生方には大変お世話になり、アンケートに協力いただいた生徒の皆さんを含めて、この場を借りて感謝の意を表しておきたい。

追記

本稿は、中津が石黒の指導の下で1995年度に卒業論文として、福岡教育大学に提出したものを、

注・文献

- 1) グールドの一連の研究については、中村 (1979B) で詳しく説明されているが、代表的な論文は以下のものである。
 - 1) Gould, P. (1966): 'On Mental maps', Michigan Inter-university Community of Mathematical Geography, Discussion Paper, No.9, pp.1-53
 - 2) 中村 豊 (1979B): メンタルマップ研究の成果とその意義, 人文地理31-6, pp.506-523
- 2) わが国においても、一般市販雑誌である「地理」の25-11 (1980) で、「メンタルマップと知覚空間」という特集が組まれたり、地理学の代表的専門誌である「人文地理」の学界展望欄に、34 (1982) 巻から「知覚・行動」の項目が新設されたことから、その発展が推察される。
- 3) 詳しくは以下の文献などを参考にするとよい。

中村 豊・岡本耕平 (1993): 『メンタルマップ入門』, 古今書院
- 4) 中村 豊 (1978): 名古屋市の地理的空間とメンタルマップ, 地理学評論51-1, pp.1-21
- 5) 代表的なものを若干あげると、以下の通りである。
 - 1) 岩本広美 (1981): 子どもの心像環境における「身近な地域」の構造, 地理学評論54-3, pp.127-141
 - 2) 岡本耕平 (1981): 福井県武生市における地名認知の研究, 地理学評論54-6, pp.334-342
 - 3) 岡本耕平 (1983): 名古屋市における認知距離, 地理学評論56-10, pp.695-713
 - 4) 寺本 潔 (1984): 子どもの知覚環境の発達に関する基礎的研究—熊本県阿蘇谷の場合—, 地理学評論57A-2, pp.89-109
 - 5) 神戸 泉 (1984): 世界の大陸の面積認知について, 人文地理36-2, pp.171-179
 - 6) 田中敏嗣・若林芳樹 (1985): 広島市における大学生の距離・方向認知, 地理科学40-3, pp.154-167
 - 7) 寺坂昭信 (1986): 東京のイメージマップ, 水津一朗先生退官記念事業会編『人文地理学の視園』, 大明堂, pp.779-789
 - 8) 内田順文 (1986): 都市の「風格」について—場所イメージによる都市の評価の試み—, 地理学評論59A-5, pp.276-290
 - 9) 山口幸男・高橋圭子 (1987): 児童生徒の国土空間認知における偏東性—都道府県名知識の空間的分析—, 学芸地理41, pp.15-25
 - 10) 関戸明子 (1987): 尾張西部における村落構成と空間認識, 人文地理39-5, pp.461-472
 - 11) 若林芳樹 (1989): 認知地図の歪みに関する計量的分析, 地理学評論62A-5, pp.339-358
 - 12) 内田順文 (1989): 軽井沢における「高級避暑地・別荘地」のイメージの定着について, 地理学評論62A-7, pp.495-512
 - 13) 石黒正紀 (1990): 大学生による手書き日本地図に関する一考察, 福岡教育大学紀要39, pp.11-24
 - 14) 矢野桂司 (1990): INDSICALによる認知地図の個人差の分析—新潟市を事例として—, 理論地理学ノート7, pp.21-44
 - 15) 杉浦芳夫 (1990): 多次元尺度構成法 (MDS) による認知地図研究の進展—1980年代を中心に—, 理論地理学ノート7, pp.45-65
 - 16) 尾藤章雄 (1992): 東京都区部および周辺地域の「地域イメージ」の構造, 地理学評論65A-11,

pp.801-823

- 17) 泉 貴久 (1993) : 近隣空間における児童の知覚環境の特性とその発達—広島市を事例として—, 地理科学48-1, pp.33-52
- 18) 成瀬 厚 (1993) : 商品としての街, 代官山, 人文地理46-6, pp.618-633
- 19) 伊藤 悟 (1994) : 北陸地方における都市のイメージとその地域的背景, 人文地理46-4, pp.353-371
- 20) 堀本雅章 (1995) : 日本の都市の認知度と歪みに関する一考察—外国人留学生による都市の認知度—, 法政大学大学院地理研究2, pp.35-48
- 6) 中村 豊 (1979A) : わが国のメンタルマップの空間的パターンと居住地選好体系, 人文地理31-4, pp.307-320
- 7) 中村 (1978), 岡本 (1981), 寺阪 (1986), 関戸 (1987) などがある。
- 8) 中村 (1979A), 神戸 (1984), 山口・高橋 (1987), 石黒 (1990) などがある。
- 9) 福岡県の場合で97市町村と, 選好の単位が100近くになる。
- 10) メンタルマップについては, 中村・岡本 (1993) が参考になるが, 次の文献も基本的なものとして重要である。
 グールド・ホワイト著, 山本正三・奥野隆史訳 (1981) : 頭の中の地図—メンタルマップ—, 朝倉書店
- 11) 岩本 (1981), 寺本 (1984), 山口・高橋 (1987), 泉 (1993) などがある。
- 12) 内田 (1986), 内田 (1989), 尾藤 (1992), 伊藤 (1994) などがある。
- 13) 1995年国勢調査時点で, 人口は約493万人である。
- 14) 地区区分と地域概観については, 多少古い文献であるが, 次のものが参考になる。
 日本地誌研究所 (1979) : 『日本地誌 第19巻 九州地方総論・福岡県』, 二宮書店, pp.183-286
- 15) 1995年国勢調査時点で人口は約102万人と, 北九州市成立時より減少している。
- 16) 山田市はその代表例で, 全国で二番目に人口の少ない市として知られている。
- 17) 1995年国勢調査時点で, 人口は約129万人に達している。
- 18) アンケート協力校は, 北九州地区が小倉高校, 筑豊地区が田川高校, 福岡地区が筑前高校, 筑後地区が浮羽高校と三潞高校である。
- 19) 市郡を選好単位としたのは, 40程度であれば, 日本の都道府県数に近く, 高校生でも順位づけがある程度可能であると, 判断したためである。
- 20) ここでは基本的に内田 (1986) の方法を採用しているが, 内田の場合は調査対象者が地理学者というところもあって, 7段階の評価を行っている。
- 21) 中村が, その研究においてグールドの手法を正確に踏襲しているのだから, 詳細については, 中村 (1979A) が参考になる。
- 22) 統計ソフトは, 現代数学社のパソコン用統計解析プログラムパッケージである「HALBAU (High quality Analysis Libraries for Business and Academic Users)」を使用して, 分析を行った。
- 23) 個人間の順位相関係数を手計算をした上で, その相関係数を手入力しなければならない。
- 24) これについても, 内容は中村 (1979A) が参考になる。
- 25) 選好順位をそのままデータとして採用しているのだから, 選好が後になるほど数値が大きくなるため, そのような計算結果が出てくる。
- 26) ただ郡部に限って, 配列順と順位の相関係数を計算してみると, 最高が筑前女子の0.735, 最低が田川男子の0.079と相関関係は弱く, 三潞男子の場合は-0.113と負の値を示すなど, 相関関係は認められない。
- 27) 中村 (1979A) では, 第2次元までのメンタルマップの共通性が高いことを指摘している。
- 28) 石黒 (1990) でも, 記入府県数の男女による差が指摘されている。
- 29) 全員と男子の場合, 相関係数は0.972, 女子の場合も0.971である。
- 30) 得点は 大牟田市 (男子-1.163, 女子0.063), 八女郡 (-0.035, 0.730), 山門郡 (0.252, 1.044), 三池郡 (0.704, 1.714) となっている。
- 31) 順位も 大牟田市 (男子11.69, 女子22.00), 八女郡 (20.75, 25.47), 山門郡 (21.44, 27.63), 三

池郡 (25.69, 32.37) となっている。

- 32) 中村 (1979A) では, 第2次元のメンタルマップの方が共通性が高くなっていた。
- 33) 標準偏差は北九州市が 0.977 , 福岡市が 0.636 である。
- 34) それぞれの標準偏差は, 順に 1.029 , 1.096 , 1.109 である。
- 35) それぞれの標準偏差は, 順に 1.085 , 1.399 , 1.095 , 1.217 である。
- 36) 山田市の他, 小郡市, 三潞郡, 三池郡の4市郡である。
- 37) それぞれの標準偏差は, 順に 1.171 , 1.267 である。